

日本地質学会第122年学術大会（2015長野大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月13日（日）午前

会場	第1会場（工学部講義棟100）	第2会場（工学部講義棟102）	第3会場（工学部講義棟200）
	R10. 堆積過程・堆積環境・堆積地質	R13. 沈み込み帯・陸上付加体	S1. 北部フォッサマグナー東西日本の地質境界：過去、現在、そして未来
	座長：仁科健二（5-8）、西田尚央（9-12）	座長：橋本善孝（1-5）、坂口有人（6-11）	座長：常盤哲也（1-2）、廣内大助（3-4）
8:45	8:45 R10-O-5 開水路ベッドフォーム形成条件の判別分析。大畑耕治・成瀬元・横川美和 9:00 R10-O-6★ 流砂による侵食で形成される基盤岩上の周期的ステップの形態に被覆堆積物が及ぼす影響。横川美和・京極晃年・小寺彰・泉典洋 9:15 R10-O-7 沖縄島周辺海域の黒潮逆流の影響を受けた深海堆積物。西田尚央・板木拓也 9:30 R10-O-8 駿河湾から採取された洪水堆積物のバイオマーカー分析に基づく植物片の起源と運搬過程の推定。風呂田郷史・沢田健・西田尚央・池原研 9:45 R10-O-9 2011年東北沖津波が残した地球化学的痕跡とその時間変化：千葉県山武市蓮沼の例。篠崎鉄哉・澤井祐紀・原淳子・池原実・松本弾・谷川晃一朗 10:00 R10-O-10 宮崎平野における津波イベント堆積物について。市原季彦・黒木昌・伊集院弘尚 10:15 R10-O-11 岩手県広田湾における3.11津波堆積物の分布と内部特徴。横山由香・坂本泉・八木雅俊・井上智仁・根元謙次・藤巻三樹雄・笠谷貴史・藤原義弘 10:30 R10-O-12 2011年東北地方太平洋沖地震津波による海底侵食面とその保存ポテンシャル：仙台湾浅海底を例として。吉河秀郎・後藤和久・金松敏也・阪口秀	8:45 R13-O-1 南西諸島海溝南部における前弧ウェッジ構造とプレート境界特性。新井隆太・海宝由佳・高橋努・仲西理子・藤江剛・中村恭之・三浦誠一・小平秀一・金田義行 9:00 R13-O-2（招待）★ 蛇紋岩化したウェッジマントルにおける固体流動と流体浸透。ウォリスサイモン・水上知行・遠藤俊祐・永治方敬・青矢陸月・河原弘和 9:30 R13-O-3 白亜紀後期日本の構造浸食作用の活動時期。青木一勝 9:45 R13-O-4 温度が規定する沈み込み帯巨大地震の変位量と再来周期—コスタリカ沖地震発生帯の例—。坂口有人・山下純平 10:00 R13-O-5 コスタリカ沖沈み込み帯斜面に発達する大規模地震波反射面・不整合における物性変化を支配する堆積・変形・化学過程。浜橋真理・スクリートンエリザベス・谷川亘・橋本善孝・マーティンキララ・斎藤実篤・木村学 10:15 R13-O-6 付加体掘削での坑内温度計測。山田泰広・真田佳典・Kyaw Thu Moe 10:30 R13-O-7 掘削トルクデータから求めた日本海溝沈み込み帯の高速摩擦強度断面。氏家恒太郎・井上朝哉・石渡隼也 10:45 R13-O-8 コア試料の非弾性ひずみ回復法による応力測定：GSJ新居浜掘削の例。林為人・木口努・佐藤隆司・長野優羽・畠田健太郎・多田井修・桑原保人 11:00 R13-O-9 小断層の発熱量・活動時間の推定とスロー地震のスケーリング則との関係：四国四万十帯。橋本善孝・森田清彦・大久保慎人・浜田洋平・林為人・廣瀬丈洋・北村真奈美 11:15 R13-O-10 南海トラフ巨大分岐断層の暗灰色ガウジにおけるイライト化反応の定量的評価。増本広和・亀田純・濱田洋平・北村有迅 11:30 R13-O-11★ 断層岩の微量元素分析に基づく摩擦溶融の評価。石川剛志・氏家恒太郎・松岡淳・永石一弥・川合達也	8:45 S1-O-1 糸魚川—静岡構造線活断層帯において発生した2014年長野県北部の地震にみられる諸課題。廣内大助 9:30 S1-O-2（招待） 北部フォッサマグナの地殻構造と新生代テクトニクス。佐藤比呂志 10:15 S1-O-3（招待） 島弧地殻の変形と内陸震発生過程。飯尾能久 11:00 S1-O-4 短縮テクトニクスにより生じた北部フォッサマグナと大峰帯での変形。飛騨山脈の傾動隆起。原山智
	R7. 海洋地質		
	座長：板木拓也（1-3）		
	11:00 R7-O-1 第四紀後期の浮遊性有孔虫殻形態の変遷からみた北大西洋亜極循環の形成時期。山崎誠・嶋田智恵子・池原実 11:15 R7-O-2 北部九州—パラオ海嶺における海洋地質調査の成果と古海洋研究の展開：新青丸KS-15-4次航海速報。池原実・岡崎裕典・堀川恵司・板木拓也・杉崎彩子・松崎賢史・佐藤太一・佐藤雅彦 11:30 R7-O-3 ピストンコアラーのインナーパイプに関する課題。佐藤悠介・橋本泰志		

(27)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (11) を参照）。（招待）：招待講演。

日本地質学会第122年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月13日（日）午前

会場	第4会場（工学部講義棟 300）	第5会場（工学部講義棟 301）	第6会場（学部共通棟 1）
	T6. 地球史から宇宙史へ：日本の地球史研究 25年 座長：磯崎行雄（1-4）、小宮 剛（5-8）、片山郁夫（9-13）	R2. 岩石・鉱物・鉱床学一般 座長：壺井基裕（1-3）、額頼佑衣（4-6）	S3. 法地質学の進歩 座長：風岡 修（1-3）・杉田律子（4-6）
8:45	8:45 T6-O-1 1990年に日本で全地球史解説研究を開始したのはなぜか？ 丸山茂徳 9:00 T6-O-2 (招待) My research history and geology in Japan. Windley Brian F. 9:15 T6-O-3 Shock-metamorphosed zircons recovered from the Jack Hills metaconglomerates in the Narryer Gneiss Complex, Western Australia. 山本伸次 ・小宮剛・飯塚毅・渋谷岳造・Collerson Kenneth 9:30 T6-O-4 最古の表成岩と初期地球進化. 小宮 剛 ・山本伸次・越田溪子・青木翔吾・田代貴志・石川 晃 9:45 T6-O-5 海洋の持続的な存在の検証：地球内部での水収支. 片山郁夫 10:00 T6-O-6 地球史を通じた海洋塩化物イオン濃度の変化. 齋藤拓也 ・渋谷岳造・澤木佑介・小宮 剛・丸山茂徳 10:15 T6-O-7 エディアカラ紀の古環境解説研究. 澤木佑介 10:30 T6-O-8 広域変成帯の研究からみた固体地球変動とその変遷. 太田 努 ・片山郁夫 10:45 T6-O-9 太平洋型造山運動に基づくウェールズ・イングランド地域の構造発達史の再解釈. 浅沼 尚 ・岡田吉弘・澤木佑介・山本伸次・丸山茂徳 11:00 T6-O-10 ジュラ紀付加体中のペルム系-ジュラ系層状チャートに記録された地球外物質の付加. 尾上哲治 ・佐藤峰南・野崎達生・鈴木勝彦・中村智樹・白井直樹・海老原充 11:15 T6-O-11 (招待) タンデム惑星形成論：京都モデルの枠組みに新物理. 戎崎俊一 ・今枝佑輔 11:30 T6-O-12 前期原生代研究：酸素濃度の増加とガボン多細胞生物の出現. 佐藤友彦 ・澤木佑介・丸山茂徳 11:45 T6-O-13 人類進化と大陸リフト系の誘発トリガー. 磯崎行雄	9:00 R2-O-1 男鹿半島一の目潟・寒風火山に産する交代された下部地殻捕獲岩の化学組成と組織の変化. 山元正継 ・業田顕行 9:15 R2-O-2 多里-三坂かんらん岩（西南日本）：超枯渇海洋性マントルかんらん岩？ 荒井章司 ・田村明弘 9:30 R2-O-3 北八ヶ岳横岳火山岩類の岩石化学・鉱物学的研究. 大場孝信 9:45 R2-O-4 長野県大町市、仁科山地に分布する木崎流紋岩類の岩石化学的研究-その2-. 渡辺吉和 ・大場孝信 10:00 R2-O-5 氷上花崗岩類と古生代花崗岩類のSr-Nd同位体比. 佐々木 惇 ・土谷信高・柴田知之・芳川雅子・足立達朗・中野伸彦・北野一平・小山内康人 10:15 R2-O-6★ 三内丸山遺跡出土の緑色磨製石斧の岩石学的特徴とその原産地. 前川寛和 ・大塚和義・山本鋼志・合地信生	9:00 趣旨説明及び会長挨拶 9:10 S3-O-1 Introduction to Forensic Science and Geology. SUGITA Ritsuko 9:25 S3-O-2 (招待) Forensic Geology - The Science and the Application. Ray MURRAY 9:50 S3-O-3 (招待) Searching for graves and objects buried in peat or concealed in freshwater associated with crime. Alastair RUFFELL ・Laurance Donnelly 10:15 休憩 10:25 S3-O-4 (招待) ※講演取消 Forensic Geology Cases from North America. William M. SCHNECK 10:40 S3-O-5 (招待) Using GIS in Forensic Search Strategies. Jennifer McKINLEY 11:05 S3-O-6 (招待) Forensic Examination of Soil Evidence in Japan. Hiromi ITAMIYA ・Ritsuko SUGITA 11:20 Discussion
		R4. 変成岩とテクトニクス 座長：宮崎一博（1-4）	
		10:45 R4-O-1 天然のカンラン石ファブリックとテクトニクスの関係. 道林克禎 ・尾上彩佳・小田島庸浩 11:00 R4-O-2 マリアナ海溝最西端で採取された海溝カンラン岩の地質学的研究. 大家翔馬 ・道林克禎・小原泰彦・石井輝秋・水野那希・萬年一剛 11:15 R4-O-3 変成脈における炭酸塩鉱物の周期的沈殿：接触変成帯と広域変成帯における2つの事例の比較. 西山忠男 11:30 R4-O-4 スタグナントスラブ、展張、変成帯貫入. 鳥海光弘	

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (11) を参照）。（招待）：招待講演。

日本地質学会第122年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月13日（日）午前

会場	第7会場（学部共通棟3）	第8会場（太田国際記念館研修室）
	T5. 「泥火山」の新しい研究展開に向けて	R6. ジオパーク
	座長：井尻 暁（1-6）、土岐知弘（7-11）	座長：天野一男（1-4）、渡辺真人（5-9）
8:45	8:45 T5-O-1 音響層序学および構造学的見地から考える泥火山探査：熊野泥火山群を例に、 森田澄人 ・芦 寿一郎・中村恭之	9:15 R6-O-1 世界ジオパークを巡る現在の状況と今後の方向、 渡辺真人
	9:00 T5-O-2 南海トラフ熊野海盆の断層分布と泥火山の関係、 辻 健	9:30 R6-O-2 (招待) ★ 日本のジオパークの現状と課題、 松原典孝
	9:15 T5-O-3 海洋泥火山へのアプローチ—熊野外縁隆起帯における泥火山活動の理解のために、 浅田美穂 ・野口拓郎・川村喜一郎・中嶋新・潮崎翔一・Moore G.F.	10:00 R6-O-3 北海道地質百選 —北海道の地質 魅力発見!—、 重野聖之 ・石井正之・垣原康之・鬼頭伸治・田近 淳・中川 充・宮坂省吾
	9:30 T5-O-4 熊野海盆の海底地すべりとそのトリガー、 川村喜一郎 ・グレゴリー ムーア・浅田美穂・潮崎翔一・中嶋 新	10:15 R6-O-4 赤石山脈、遠山上流域の溪谷がもつ特性—南アルプスジオパークの主な溪谷の比較から—、 坂本正夫
	9:45 T5-O-5 熊野沖海底湧水域の間隙水の化学組成から推定された湧水の起源と間隙流体の分布と挙動、 土岐知弘 ・比嘉良作・井尻 暁・角皆 潤・芦 寿一郎	10:30 R6-O-5 ジオパークを活用した学校の教育活動、 高木秀雄 ・山本隆太
	10:00 T5-O-6 (招待) 海底泥火山深部生命圏の実態解明に向けて、 稲垣史生 ・井尻 暁	10:45 R6-O-6 三陸ジオパークにおける教育普及活動の紹介、 齋 宏行 ・下向武文・熊谷 誠・永広昌之・大石雅之・橋本智雄・伊藤太久
	10:30 T5-O-7 種子島沖海底泥火山の新規流出泥流調査速報、 井尻 暁 ・町山栄章・稲垣史生・芦 寿一郎	11:00 R6-O-7 生まれ変わったフォッサマグナミュージアム、 竹之内 耕 ・宮島 宏・茨木洋介
	10:45 T5-O-8 (招待) ★ 陸上泥火山研究の進展、 田中和広	11:15 R6-O-8 平尾台の保護の歴史に見る先進的取り組みとジオパーク活動による活用、 太田泰弘 ・久下洋一
	11:15 T5-O-9 Active mud volcanism on Ramree and Cheduba Islands, offshore west Myanmar、 Moore Gregory F. ・Aung Lin Thu・Kopf Achim	11:30 R6-O-9 地質遺産3Dアーカイブの試み、 北沢俊幸 ・金井友則・谷口健太・白木洋平
	11:30 T5-O-10★ LUSI泥火山の特徴と発生過程の再検討（レビュー）、 谷川 亘 ・西尾嘉朗	
	11:45 T5-O-11 フランススカン・メランジュの最終的配置：泥岩の注入説、 小川勇二郎	

■ MEMO ■

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (11) を参照）。（招待）：招待講演。

日本地質学会第122年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月13日（日）午後

会場	第1会場（工学部講義棟 100）	第2会場（工学部講義棟 102）	第3会場（工学部講義棟 200）
	R7. 海洋地質	R13. 沈み込み帯・陸上付加体	S1. 北部フォッサマグナー—東西日本の地質境界：過去、現在、そして未来
	座長：小原泰彦（4-6），中村謙太郎（7-10），井上卓彦（11-14）	座長：氏家恒太郎（12-17）	座長：原山 智（5-6）
14：30	<p>14：30 R7-O-4（招待）★ 沖繩トラフの海底熱水系の地球化学的特徴。石橋純一郎</p> <p>15：00 R7-O-5（招待）★ 北部琉球弧における第四紀海底火山活動。横瀬久芳</p> <p>15：30 R7-O-6 中部沖繩トラフにおける海底熱水噴出孔の網羅的探索。中村謙太郎・川口慎介・北田数也・熊谷英憲・高井 研・沖野郷子</p> <p>15：45 R7-O-7 パーティカルケーブルサイズミック探査手法を用いた中部沖繩トラフ伊是名海穴Hakurei熱水サイトの浅部地下構造と海底熱水鉱床の分布。多良賢二・芦寿一郎・浅川栄一・村上文俊・塚原均・徳山英一</p> <p>16：00 R7-O-8 海底地形図「南西諸島」に見る沖繩トラフの海底地形と海底地形名。小原泰彦</p> <p>16：15 R7-O-9 鬼界カルデラ及び薩摩硫黄島における海洋底堆積物の層序と鉱物・化学組成。原田拓人・清川昌一・池原 実</p> <p>16：30 R7-O-10 喜界島南方の海底カルデラ状地形から採取された堆積物の特徴。板本拓也・佐藤太一・井上卓彦・天野敦子・田中裕一郎</p> <p>16：45 R7-O-11 伊豆半島南沖の石廊海底谷から得られた玄武岩と相模湾東部の相模海丘の複数の玄武岩礫層類のテクトニクス。藤岡換太郎・高橋直樹・森 慎一・大島光春・平田大二・山下浩之・柴田健一郎・KOOHOOの会</p> <p>17：00 R7-O-12 房総半島東部沿岸における反射法音波探査とその地質学的意義。古山精史朗・佐藤智之</p> <p>17：15 R7-O-13 三次元的構造解析による下北半島沖大規模海底地すべり層の規模と滑動方向の推定。中村祐貴・芦 寿一郎・森田澄人</p> <p>17：30 R7-O-14 ロギング地質学への挑戦—IODP Expedition 337. 青森県八戸沖掘削での岩相同一。中嶋 新・斎藤実篤・川村喜一郎</p>	<p>14：30 R13-O-12（招待）★ 高分解能反射構造イメージングから得られた南海トラフ沈み込み帯の特徴。山下幹也・中村恭之・仲西理子・三浦誠一・小平秀一・金田義行</p> <p>15：00 R13-O-13 紀伊半島南部四十万帯の海底地すべり—土石流堆積物。中屋志津男・中屋志郎</p> <p>15：15 R13-O-14 底付け付加体の小断層方位解析による古応力と摩擦係数の推定。佐藤活志</p> <p>15：30 R13-O-15 炭質物のラマンスペクトルを用いた断層における摩擦発熱検出。田畑皓輝・氏家恒太郎・額額佑衣・鍵 裕之</p> <p>15：45 R13-O-16★ 房総半島から見いだされた沈み込み帯浅部の地震性すべりの痕跡。山本由弦・千代延 俊・氏家恒太郎・濱田洋平・神谷奈々・斎藤実篤</p> <p>16：00 R13-O-17 房総半島の前弧海盆南縁における変形と被熱構造。神谷奈々・山本由弦・竹村貴人</p>	<p>14：30 S1-O-5（招待） 東北日本弧の後期新生代地質構造発達史。中嶋 健</p> <p>15：15 S1-O-6（招待） プレート運動に基づく日本列島の形成過程。高橋雅紀</p> <p>16：15 総合討論</p>

（30）

※講演番号は、シンポジウム（S）、トピックセッション（T）、レギュラーセッション（R）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (11) を参照）。（招待）：招待講演。

日本地質学会第122年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■ 9月13日（日）午後

会場	MEMO
14:30	

第5会場（工学部講義棟 301）	
R4. 変成岩とテクトニクス	
座長：河上哲生（5-8），志村俊昭（9-11），遠藤俊祐（12-15）	
14:30	R4-O-5（招待）★ 高圧・超高圧変成岩のフェンジャイトK-Ar年代学。板谷徹丸
15:00	R4-O-6 三波川エクロジャイト中に共存する異なる累帯構造のザクロ石：エクロジャイト相変成作用時の岩石混合の証拠。榎並正樹・木村純一・壺井基裕
15:15	R4-O-7 秩父帯北帯の地質構造と変成作用。遠藤俊祐・ウォリス サイモン
15:30	R4-O-8 西彼杵半島泥質片岩の変成岩組織。ジルコンU-Pb年代及びフェンジャイトK-Ar年代。宮崎一博・西山忠男・森 康・重野未来・檀原 徹・岩野英樹・八木公史・平田岳史
15:45	R4-O-9（招待）★ グラニュライト中の「珪長岩包有物」から推定される大陸衝突型造山帯での地殻深部過程。廣井美邦・鹿山雅裕・三宅 亮・足立達朗・外田智千・Prave Bernard・Satish-Kumar Madhusoodhan・柳 綾彦・加藤睦実・小林記之・石川正弘・小山内康人・西戸裕嗣・本吉洋一・白石和行
16:15	R4-O-10 東南極スカレビックハルセン産ザクロ石-珪線石片麻岩の複変成の可能性と塩素に富む黒雲母の意義。河上哲生・外田智千・坂田周平
16:30	R4-O-11 ザクロ石Ti 温度計。川崎智佑・本吉洋一
16:45	R4-O-12 New constraints on the tectono-thermal history of the Ryoke Belt (Iwakuni-Yanai area, Yamaguchi Prefecture). SKRZYPEK Etienne・KAWAKAMI Tetsuo・HIRATA Takafumi・SAKATA Shuhei・IKEDA Takeshi・KATO Takenori
17:00	R4-O-13 日高変成帯の形成テクトニクス（1）：二度の変成作用と地殻の二重構造。志村俊昭・小島 萌・KEMP Anthony I. S.
17:15	R4-O-14 日高変成帯の形成テクトニクス（2）：二度の火成活動。小島 萌・KEMP Anthony I. S.・大橋美由希・志村俊昭
17:30	R4-O-15 方解石双晶の方向データから複数の偏差応力テンソルを検出する新手法。山路 敦

第6会場（学部共通棟 1）	
R23. 原子力と地質科学	
座長：吉田英一（1-4），梅田浩司（5-8），高橋正樹（9-12）	
14:30	R23-O-1（招待） 地球環境変遷から見た人口・エネルギー問題と原子力。山崎晴雄
15:00	R23-O-2 日本列島第四紀マグマ活動の長期安定性評価と問題点。高橋正樹
15:15	R23-O-3 内陸地震震源域下の流体の分布と起源：地球物理，地球化学データをを用いた震源断層の調査技術に向けて。梅田浩司・浅森浩一
15:30	R23-O-4 地質環境長期安定性評価確証技術開発：後背地解析技術に関する研究。安江健一・須貝俊彦・徳安佳代子・小松哲也・堀内泰治・清水 整・森田泰彦
15:45	R23-O-5 わが国の観点からのわが国の深部地質環境の分類- NUMOセーフティケースにおける候補母岩の設定-。太田久仁雄・國丸貴紀
16:00	R23-O-6 わが国の新第三紀堆積岩類を対象とした地質構造モデルの構築- NUMOセーフティケースにおける候補母岩のモデル化-。戸田亜希子・田中達也・プライネス パトリック・戸谷成寿・太田久仁雄・國丸貴紀
16:15	R23-O-7 ナチュラルアナログを活用した「サイトの安定性」評価とその指標の検討。山田彩織・太田久仁雄・Alexander W. Russell
16:30	R23-O-8 地層処分地選定のための地質環境調査技術の実証研究。吉村公孝・出口 朗・西尾 光・近藤浩文
16:45	R23-O-9★ 日本の原子力規制と地質学。石渡 明
17:00	R23-O-10 断層周辺ダメージゾーンの充填鉱物による履歴解析とその応用。吉田英一
17:15	R23-O-11 瑞浪超深地層研究所における断層の分布と地質環境への影響に関する事例研究。野原 壯・酒井利啓・石橋正祐紀・松本 淳
17:30	R23-O-12 熟年代学および記載岩石学的検討に基づく中部日本土岐花崗岩における割れ目頻度と岩体冷却過程の関係。笹尾英嗣・湯口貴史

(31)

※講演番号は、シンポジウム (S)、トピックセッション (T)、レギュラーセッション (R) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
 ※太字氏名：代表発表者。★印：ハイライト（本誌 p. (11) を参照）。（招待）：招待講演。